

第 11 回 湖西市職住近接・未来ビジョンアドバイザーボード 会議議事録

開催日時：令和 6 年 11 月 22 日（金）15 時 30 分～17 時 10 分

会 場：湖西市役所 市長公室

テ ー マ：これまでの成果と今後の取組について

発言者	発言内容
菊地委員	<ul style="list-style-type: none">・影山市長は、市民の声を聞くという姿勢を徹底し、市民や企業などからのアンケートなど様々なデータ・根拠に基づき、すぐに施策に反映させているのが良かった。・結婚・出産・子育て支援や移住施策など、地域の持続可能性を踏まえたポイントを押さえたメリハリのある予算配分が実行されている点も良かった。・今までは高齢者支援が重視され、最近の流れでは子ども・子育て支援が重視されるようになってきた。これからは、間に取り残された若者・女性への支援が大事になってくる。・行政にできること、できないことがある。コーディネート、中間支援が地域づくりに大事になってくる。
岩間委員	<ul style="list-style-type: none">・影山市長の任期を振り返ると、コロナが一番大きな出来事。価値観や行動様式が大きく変化した。・全国的に、婚姻数、出生数が大きく減少している。一方で、外国人労働者が増えている。湖西市も外国人が 4,000 人ほどいて、比率的には高い。性別や国籍といった多様性というものが他の自治体に比べて重視される大きなテーマの 1 つになる。・また、移住・定住施策を進めるなかでウェルビーイングは大きなキーワード。経済的な豊かさよりも違う方面での豊かさを重視した湖西市ならではの政策を打ち出していくと良い。
土居委員	<ul style="list-style-type: none">・影山市長は、市民との距離が近く、湖西の潜在力を発掘しようと意欲的であった。湖西パークやバッテリーパークなど、迫力のある魅力的な打ち出し方をしていた。・医療と介護の地域連携の問題は湖西市ではあまり聞かなかつた。それよりも子ども・子育て支援に注力していて国より先行している印象がある。・これから学校教育をどうしていくかも重要。文科省の指示を待つのではなく、児童や保護者のニーズを汲み取りながら独自の取組を展開していくと良い。・工場の多い湖西市では、他の自治体よりも外国人労働者に地域に馴染んでもらう必要がある。
野村委員	<ul style="list-style-type: none">・影山市長は、「職住近接」を貫く形で様々な施策を打ち出していた。移住・定住施策に手厚い中、今住んでいる人たちの不満もあったと思うが、バランスをとりながら進めるのは大変だったと思う。・日本全体で予算を増やせていないところ、湖西市で子育て・教育予算が増えているのは頑張っている。・自治体だけで解決できることは多くないので、自治体は悪い情報も含めて正しい情報を全て出して、助けを借りながら市政運営をしていくのが良い。湖西市なら、市民が主体的に助け合い、関わってくれる規模である。市民を巻き込んでいく力もある。

	<ul style="list-style-type: none"> ・女性活躍も障がい者福祉も、マイノリティ側が頑張るのではなく、その周りにいる多い方が頑張らなきゃいけない。 ・産婦人科医誘致の件では苦勞していたが、助産師外来ができたのは良かった。
大倉委員	<ul style="list-style-type: none"> ・影山市長の「職住近接」は、住むところと働くところが近いとゆとりができるという、分かりやすさが圧倒的。SNSも発信力があり、分かりやすさ、テーマ、情報量が良かった。 ・湖西市は豊かな魅力はあるのに、住んでいる湖西市の人は認識していない。 ・子育てのしやすさは、各家庭でニーズが異なる。出産・妊娠で必ず市役所を通るのでそこで市の施策を情報提供する。パワハラ問題対策などの人権教育や、経営者への教育も必要となる。みんながサステナブルになるための子育て支援を量よりも質に注力していくべきである。 ・湖西市は、車の運転ができない人の移動が非常に困難で支援が必要である。 ・集う場所の少なさも問題。若者も高齢者も、いろんな使い方ができる場所があると良い。
井上委員	<ul style="list-style-type: none"> ・大学でも外国人留学生が10%を超えている。それが当たり前として考える必要がある。技能実習生など働く人たちが定住し、その次の世代がどのように定着していくかが問題となる。 ・大学は、今まででの詰込み型教育ではなく、デザイン力、チームワーク力、コミュニケーション力をつける教育に変わってきて、これからは知識・能力だけでなく、人間としてどのように活躍するかに重点が置かれるようになってきた。すぐに社会の役に立ちたい、活躍したいと思う学生は市役所を選ばず、良い人材が集まらない。従来型でなく、新しいことにチャレンジする市役所であることをアピールすれば、湖西市を選ぶ学生もいると思う。
伊藤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・湖西市は、豊橋市に勤務する人も多く、テレビ電波も名古屋に合わせていたので静岡県という意識が少なかった。平成の大合併で、市の在り方をじっくり考えることができた。優良企業も多かった。ここで職住近接の種がまかれていたと思う。 ・平成の大合併から20年。スケールメリットでは解決しないことも多く、自主独立を選んだ湖西市はそのメリットを活かした方が良い。 ・65歳以上の高齢者の人口比は深刻。大学進学で市外に出た若者が地元に戻ってきたときの受け皿をしっかり整えておくことが重要である。 ・円安で日本に残る外国人労働者も減っている。資格取得支援や地域との交流をはかって住みやすさをアピールして呼び込む対策が必要である。
佐原委員	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車関連メインで仕事量は落ちずにできているが、20～30年前からの仕事もある中で単価を上げてもらえない。技能実習生も取り入れているが、人材の確保は難しい。「職住近接」で人を増やすことの大切さを実感した。 ・衰退していく街を見ると、維持は衰退だと感じる。何か改善をしないと、例年通りでは衰退してしまう。鷺津地区でも、空き家問題で人口減少が深刻であり、昔からの祭りも担い手がなくなっている。 ・仕事はあるが、工場を広げる土地がない。物価高で、得られる単価は変わらない中でかかる経費が増えている。補助金などを申請して、新しい取組をしながらじゃないといけない。外国人の新しい力も大切であるし、今後の市の取組に期待している。 ・湖西市にだけ住んでいると良いところに気づいていない。浜名湖や温暖な気候など、あるものを見れば湖西市は本当に良いところ、若い世代にも伝えていきたい。

菊地委員

・影山市長の実績では、行政に対する信頼性を高めたのは大きい。市民を向いて仕事をする姿勢が、市民の信頼や地域への愛着心、誇りを育てることにつながる。